

ラッシュガードの着用が中学生の水泳授業 に対する好感度に及ぼす影響

—水着着用に関わる生徒の心理的問題に注目した検討—

上野 耕平

香川大学 教育学部

問題の所在

3

- 心理学の視点からすれば、中学生は一般的に思春期にあたる年代であり、性別を問わず自らの外見を非常に気にするようになる（深谷，1986）。



肌の露出を伴う水着の着用が求められる水泳の授業は、思春期にある中学生にとって、それまでのような「楽しい」授業ではなくなると理解できる。

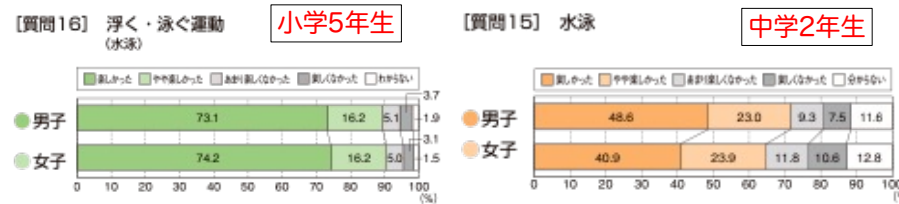


肌の露出を減らす「ラッシュガード」を着用することにより、好感度の低下を抑制できる可能性が窺われた

問題の所在

2

- 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告書によれば、小学生から中学生にかけて、水泳の授業に対する好感度が低下することが明らかになっている。



平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告書



中学生における水泳に対する好感度の低下を導く要因を明らかにすることは、生涯にわたって水泳に親しむ児童や生徒を育成する上で極めて重要な課題であると言える。

問題の所在

4

- 水泳授業におけるラッシュガード着用に関する先行研究



日焼け止めの塗布によるプールの水質汚濁の防止（平沢，2015）

授業実施時に浴びる紫外線からの身体保護（中村，2019）



生徒の発達段階を考慮するならば、彼らが授業において水着を着用する際の心理的問題にも着目する必要がある。

本研究では、ラッシュガードの着用が中学生の水泳授業に対する好感度に及ぼす影響について、水着着用に関わる生徒の心理的問題に注目して検討する。



研究1では、大学生を対象とした回顧的調査により水着着用に関わる心理的問題を明らかにする。



研究2では、ラッシュガードの着用が許可されている中学校と不許可の中学校に通う生徒に対する調査結果をもとに、水着着用に関わる生徒の心理的問題と水泳授業に対する好感度との関係について明らかにする。

調査対象者

国立A大学教育学部に通う学生 130 名を対象に調査を実施した。その結果、127名（男子54名、女子73名、平均年齢 20.35 歳）から有効回答を得た。

調査内容

1) 水泳授業に対する好感度

「あなたは中学生の時、水泳の授業がどのくらい好きでしたか？」との説明文に対して、「嫌い」、「どちらかといえば嫌い」、「どちらかといえば好き」、「好き」のなかから、いずれかの回答を選択するよう求めた。

2) 水泳授業におけるスクール水着の着用に関する問題

「あなたはスクール水着を着用することにより、水泳授業に対する参加意欲が低下したことがありますか？」との説明文に対して、「ある」、「ない」のいずれかの回答を選択するよう求めた。その上で、「ある」と回答した調査対象者に対して、スクール水着を着用することによって生じた問題点について、自由記述による回答を求めた。

1) 水泳授業に対する好感度

回答者127名の内 83名（65.35%）の学生は、中学生時の水泳授業に対して好感を抱いていたことが明らかになった。一方で、結果には性差があり、男子（40名、74.07%）よりも女子（43名、58.90%）において、水泳授業に対して好感を抱く学生が少ない傾向が窺われた。



中学生を対象とした調査結果と同様な結果

2) 水泳授業におけるスクール水着の着用に関する問題

中学生時にスクール水着を着用することにより、水泳授業に対する参加意欲が低下したことがあると回答した学生は回答者127名の内33名（25.98%）であった。一方性別では、男子3名（5.56%）に対して、女子30名（41.10%）となり、女子では水着の着用に関する問題によって水泳授業に対する参加意欲が低下した学生が少ないことが明らかになった。

3) 水泳授業におけるスクール水着の着用に関する問題

（スクール水着着用により、水泳授業に対する参加意欲が低下したことがある33名の自由記述）

体型が晒されることについての記述 「体や脚のラインが気になる」など	18件
他者の視線が気になるという記述 「異性からの視線が気になる」、「周囲の目が気になる」など	7件
肌が露出することによって生じる問題に関する記述 「日焼けが気になる」など	4件
むだ毛について心配する記述 「むだ毛の処理が困る」、「むだ毛のそり残しが気になる」	2件



体型（体や足のライン）が分かること、周りから見られること、日焼けすること、体毛（体やわき）のこととして、スクール水着の着用に関わる4つの心理的問題として研究2で用いる

調査対象者

国立A大学教育学部附属A中学校に通う290名（男子138名、女子152名、平均年齢13.93歳）及び、附属B中学校に通う生徒315名（男子165名、女子150名、平均年齢13.39歳）から有効回答を得た。

A中学校 ラッシュガード着用不許可校

B中学校 ラッシュガード着用許可校
 （首元から腹、手首までの上半身が覆われ、紫外線対策が施されたフットマーク社製の男女兼用タイプを学校推奨）

- B中学校の生徒の内、水泳の授業中にラッシュガードを着用していたのは173名（男子39名、女子126名）、非着用であったのは142名（男子134名、女子16名）であった。

調査内容

1) 水泳授業に対する好感度

「あなたは水泳の授業がどのくらい好きですか？」との説明文に対して、「嫌い」、「どちらかといえば嫌い」、「どちらかといえば好き」、「好き」のなかから、いずれかの回答を選択するよう求めた。

2) 水泳授業におけるスクール水着の着用に関する心理的問題

研究1から得られた4つの心理的問題「体型（体や足のライン）が分かること、周りから見られること、日焼けすること、体毛（体やわき）のこと」について、「1. 気にならない」、「2. どちらかといえば気にならない」、「3. どちらかといえば気になる」、「4. 気になる」の4件法により回答を求めた。

3) 水泳授業におけるラッシュガードの着用希望

水泳授業におけるラッシュガードの着用希望（A校：可能であれば、B校：今後の授業でも）について、「1. 着用したくない」、「2. どちらかといえば着用したくない」、「3. どちらかといえば着用したい」、「4. 着用したい」の4件法により回答を求めた。

研究2：結果と考察

1) 水着の着用に関わる心理的問題がラッシュガードの着用希望に及ぼす影響

表1 水着の着用に関わる心理的問題がラッシュガードの着用希望に及ぼす影響

	男子 (138名)				女子 (152名)				全体 (290名)					
	独立変数 M(SD)	β	p	従属変数 M(SD) ΔR ²	独立変数 M(SD)	β	p	従属変数 M(SD) ΔR ²	独立変数 M(SD)	β	p	従属変数 M(SD) ΔR ²		
A校 (不許可校)	体型	1.46(.82)	-.20	.11	体型	.12	.38	体型	1.87(1.00)	-.01	.95	体型	1.72(.93)	
	視線	1.46(.78)	.13	.36	視線	.17	.16	視線	1.72(.93)	.12	.16	視線	1.72(.93)	
	日焼け	1.30(.72)	.21	.06	日焼け	.26	**	日焼け	2.45(1.17)	.26	**	日焼け	1.91(1.14)	
	体毛	1.28(.67)	.19	.05	体毛	-.07	.49	体毛	1.89(.92)	-.07	.49	体毛	1.60(.87)	
	着用希望	2.49(1.03)	.08**		着用希望	3.39(.91)	.12***		着用希望	2.97(1.07)	.20***		着用希望	2.97(1.07)
	F(df) 3.99(4, 133)**				F(df) 6.09(4, 147)***				F(df) 19.14(4, 285)***					
B校 (許可校)	体型	1.47(.75)	-.05	.66	体型	.13	.22	体型	2.03(1.07)	.21	**	体型	2.03(1.07)	
	視線	1.48(.82)	.05	.62	視線	.245(1.05)	.10	.35	視線	1.95(1.05)	.08	.28	視線	1.95(1.05)
	日焼け	1.50(.85)	.21	*	日焼け	2.72(1.19)	.25	**	日焼け	2.08(1.19)	.33	**	日焼け	2.08(1.19)
	体毛	1.43(.73)	.21	*	体毛	2.13(.97)	.01	.94	体毛	1.77(.92)	.06	.35	体毛	1.77(.92)
	着用希望	2.18(1.01)	.09***		着用希望	3.49(.88)	.12***		着用希望	2.80(1.15)	.31***		着用希望	2.80(1.15)
	F(df) 5.02(4, 160)***				F(df) 6.06(4, 145)***				F(df) 35.75(4, 310)***					

ΔR² = 調整済R²

*p < .05. **p < .01. ***p < .001

研究2：結果と考察

- 日焼けについては不許可校の男子を除き、着用希望に対する影響が認められた。そしてその不許可校の男子においても日焼けの影響は有意水準を僅かに下回るレベル (p = .06) であった。



日焼けが気になるという不安はラッシュガードの着用を希望する男女に共通する心理的問題である

- 男子では体毛においても着用希望に対する影響が認められた。



特に男子生徒においてそれまでよりも濃くなった腋や腕などの体毛が気になり、ラッシュガードの着用を希望するのではないか

- ラッシュガード着用の影響を反映していると考えられる許可校全体で、体型が晒されることを気にする生徒ほどラッシュガードの着用希望が強くなっていた。



実際にラッシュガードを着用して体型を隠せる効果を実感したことから、生徒の着用希望に影響を及ぼしたのではないかと

2) 水着の着用に関わる心理的問題が水泳授業の好感度に及ぼす影響

表2 水着の着用に関わる心理的問題が水泳授業の好感度に及ぼす影響

	男子					女子					全体				
	独立変数	β	p	従属変数 M(SD)	ΔR^2	独立変数	β	p	従属変数 M(SD)	ΔR^2	独立変数	β	p	従属変数 M(SD)	ΔR^2
A校 (不許可校)	体型	.19	.15	好感度 2.46(1.07)	.03	体型	.09	.52	好感度 2.59(1.11)	.09**	体型	.18	.07	好感度 2.53(1.09)	.04**
	視線	-.05	.75			視線	-.20	.09			視線	-.19	*		
	日焼け	-.26	*			日焼け	-.22	**			日焼け	-.16	*		
	体毛	-.01	.93			体毛	-.08	.48			体毛	-.05	.50		
	$F(df)$ 1.93(4,133), $p = .11$					$F(df)$ 4.55(4,147)**					$F(df)$ 3.66(4,285)**				
B校 (許可校)	体型	-.10	.40	好感度 2.94(.96)	.00	体型	.06	.56	好感度 2.71(1.02)	.03	体型	-.01	.92	好感度 2.83(.99)	.03**
	視線	-.09	.38			視線	-.29	*			視線	-.22	**		
	日焼け	-.07	.41			日焼け	.03	.74			日焼け	-.03	.62		
	体毛	-.16	.13			体毛	.01	.92			体毛	.07	.35		
	$F(df)$ 1.03(4,160), $p = .39$					$F(df)$ 2.20(4,145), $p = .07$					$F(df)$ 3.61(4,310)**				

$\Delta R^2 =$ 調整済 R^2 * $p < .05$, ** $p < .01$

●不許可校ではモデル自体が有意ではなかった男子を除き、授業の好感度に対して日焼けは負の影響を及ぼすことを示す結果が得られた。一方で許可校では日焼けによる影響が男女別のほか、全体においても認められなかった。



許可校では日焼けが気になる生徒はラッシュガードを着用することにより、日焼けを防止している。つまり許可校の生徒は日焼けに対する不安を感じることなく水泳授業に参加できていたのではないか

●視線に関しては許可校においても不許可校とほぼ同様の結果を示していた。また許可校のみの生徒を対象とした表3の分析結果から、ラッシュガードを自発的に着用した生徒である着用者では、視線だけが生徒の水泳授業に対する好感度を低下させていた。



ラッシュガードを着用したとしても、他者からの視線に対する不安を低減することには限界がある

3) 水着の着用に関わる心理的問題が水泳授業の好感度に及ぼす影響 (着用者と非着用者の比較)

表3 水着の着用に関わる心理的問題が水泳授業の好感度に及ぼす影響 (着用者と非着用者の比較)

	着用者 (173名)					非着用者 (142名)				
	独立変数 M(SD)	β	p	従属変数 M(SD)	ΔR^2	独立変数 M(SD)	β	p	従属変数 M(SD)	ΔR^2
B校 (許可校)	体型	2.42(1.09)	-.04	.71	好感度 2.79(.99)	.09***	体型	1.55(.83)	.06	.67
	視線	2.28(1.07)	-.34	***			視線	1.54(.87)	-.02	.85
	日焼け	2.64(1.18)	.02	.83			日焼け	1.41(.80)	-.11	.21
	体毛	2.03(.97)	.06	.52			体毛	1.44(.75)	.03	.82
		$F(df)$ 5.35(4,168)***					$F(df)$.47(4,137), $p = .75$			

$\Delta R^2 =$ 調整済 R^2

*** $p < .001$

生涯スポーツとして、学校における水泳授業には大きな期待が掛けられている一方、思春期を迎えた中学生において、水泳授業に対する好感度が低下する状況が認められた。そこで本研究では、水着の着用に関わる心理的問題を抑制すると予想されたラッシュガードに着目し、ラッシュガードの着用が生徒の水泳授業に対する好感度に及ぼす影響について検討した。

●男子では日焼け及び体毛、女子では日焼け、全体では体型が晒されること及び日焼けに対する不安がラッシュガードの着用希望を高める

●ラッシュガードの着用は生徒の日焼けに対する心身両面における不安を低減することにより水泳授業に対する好感度を高める一方、他者の視線に対する不安を低減することによる効果は認められない



ラッシュガードの着用は水泳授業に対する好感度を高め、授業への参加を促進することにより、生涯にわたって水泳に親しむ児童や生徒を育成する上でその役割を果たす